



杉浦 康憲 議員

教育行政について エアコン設置までに できること

問 熱中症を発症する恐れのある運動を伴う活動に制限を設けていますか？

答 暑さ指数のWBGTが31度以上の状況では、体育や長い放課、中学校の運動部の活動、小学校のプール開放や校外活動などを中止しています。

問 登校時に保冷材を使用したり、授業中に冷感タオルを首に巻いたりするのは？一つ提案ですが、夏の暑い時期には体操服で登下校や授業を受けたりすれば暑さ対策になるのでは？

答 小学校では、制帽をかぶって登校をしています。各家庭の判断で、冷感タオルや保冷剤を持参し、活用している子どももいます。

中学校で夏季休業中は、部活動に参加する場合や出校日等、登下校も体操服、そして校内活動も体操服を認めています。あと、帽子の着用も、当然のことながら推奨しています。南中学

校では、7月の一番暑い最終週に限ってでしたが、体操服で授業を受けることも可として対応してきました。

今後は、6月末から実施している教室環境調査を引き続き実施し、9月の結果も見て、子どもを取り巻く環境に応じて、今後の対応を検討したいと考えています。

問 子どもたちは毎日水筒を持っていますが、暑い日には空になってしまうときもあると思います。学校の水は飲めるのですか？

答 小・中学校では薬剤師が水道水の水質検査を定期的実施しており、飲んで健康上何ら問題がないという検査結果が出ていますので、水分が不足したら、水道水を飲んでよいことを子どもたちに伝えています。

問 学校の暑さ対策で質問や要望をしましたが、今後、生徒を交え、ルールや期間などを共に考えることは、お願いできますか？

答 学級活動や生徒会活動で、生徒が課題を見出し、よりよい学校生活のためのルールづくりについて、教職員と共に考える姿勢は大切にしていきたいと考えています。



小野田 由紀子 議員

学校施設や通学路に おけるブロック塀等の 安全確保推進について

問 通学路の確認や安全性に問題のある通学路を今後どうするのか。

答 毎年、通学路の安全点検を行い、危険箇所を教育委員会で取りまとめ、都市整備及び都市防災グループ、警察と連携を図り、通学路合同点検を実施している。

各学校でブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れたり、ビルの壁、屋根瓦、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れたりするなどの防災教育を繰り返し行っていく。

問 通学路に面している民間のブロック塀等の撤去費用支援について。

答 危険なブロック塀等の撤去を推進するため、現在、補助制度の準備を進めている。

問 近隣市における補助制度の現状は。

答 刈谷市と西尾市は、既に補助制度を設置。

本年10月から本市を含む6市全てが補助上限額10万円。安城市は通学路沿いにある民間ブロック塀撤去は、補助限度額15万円。

問 安城市のように、独自の補助金の上乗せも検討していく必要があるのでは。

答 民間ブロック塀の安全対策の一手法として、検討を重ねていきたい。

不育症の周知や患者支援の推進について

問 不妊症と比べ、未だに不育症を知らない人が多く、流産、死産で心身に大きなダメージを受け、4割は強い心のストレスを抱えたまま苦しみ続けているとのことだが、相談窓口の充実や、周知啓発をどのように行っていくのか。

答 繰り返す流産の不安から出産に至るまで、心配だと感じている方や一人で悩んでいる方に正確な情報を提供し、不安軽減に努める。また、広報やホームページで情報発信していく。

問 不育症治療費助成制度の考えは。

答 先進自治体の実施状況や助成の成果を研究し、子どもを産み育てることに幸せを感じ、次の出産につながる、子育てに優しいまちを目指して取り組みます。